ひととまちの夢を開発する企業を目指して！

Dreams Developer

新大分土地株式会社

本社：大分市中央町1-5-25新大分ビル4F
TEL.097-534-3371 FAX.097-536-3522

府内営業所：大分市府内町1-6-19三浦ビル1F（サンサン通り）
TEL.097-536-2002 FAX.097-533-9081

E-mail.tochi@shinoita.com

http://www.shinoita.com

d.d style vol.4 平成16年8月発行 企画・編集：d.d project

視点を変えてまちを見つめると、いろんな可能性が見えてくる。

d,d style

おおいたのまちを刺激するフリーマガジン　VOL.4

特集：シェアオフィス

無料
ご自由に
お取りください

KASUGA
Design Room

cólors create

1つのドア。2つのオフィス。

シェアオフィスってなに?
オフィスを一緒に使うということは分かるけど、
実際、どうなんだろう?

変!? だけど、気持ちいい。

「カスガデザインルーム」と「カラーズクリエイト」が
共存するオフィスは、小規模の事務所が集まった
いわゆるSOHOスタイルのビルのなかにある。
むき出しの配管や無機質な廊下と、
未完成にも思えるインテリアとの不思議な調和。
この気持ちいい空間の主とは…。

ここが、わたしを呼んだんです。

カスガデザインルームは、ブライダルツールを中心としたデザインワークを行っているオフィス。
印刷会社の制作部門のサテライトオフィスといってもいい。
クリエイティヴな仕事に集中できる環境を探していたとき、知人の紹介でこの場所と出会い、彼女は入居を決めた。

Yuko Furusho

最初から何もない空間。だから自由なんです。

カラーズクリエイトは、WEBとグラフィックの
デザインワークを手掛けるオフィス。
彼女は専門学校のWEBデザインの講師も務めている。
引越しはまだ完了してないそうだが、
これから空間を造りこんでいくことが楽しみだという。

Yuri Kinoshita

1を2で割れば、未来の扉が開く

小学校では1÷2＝0.5と教える。確かに家賃を2人で割れば半分になる。しかし、人間の社会はそんなに簡単なものではない。空間を2人でシェア（共有）すると、どんなことが起こるのだろうか…。

入居を決意した昨年10月31日のイベント

デザイナーであり、現代美術のアーティストでもある古庄優子さんは、デザインワークの事務所兼アトリエを探していたときに、大分市都町にある古いビルと出会った。当時、このビルはそれまでの内装を撤去した廃虚のような存在。改装後はハーフスケルトン仕様の部屋になると聞いてはいたが、入居後のイメージがわかず、入居についてはさんざん迷った。

その迷いを払拭したのが、2003年10月31日にこのビルで行われたイベント（d.d style vol.3参照）だった。異分野のアーティストたちによるイベントは、古庄さんのイマジネーションを刺激。「この場所がわたしを呼んでいる」と思ったことから、入居を決意した。

装飾がないコンクリートがむき出しの室内は、個性が生かせる自由な空間づくりができることから、クリエイティヴな仕事に携わる彼女にとっては理想の場所だったのだろう。

とはいうものの、1人で借りるには広すぎる8坪のスペース。それに家賃のことも気になった。そんなときに出会ったのが木ノ下結理さんだった。

それまで2人は友人という間柄ではなかったが、古庄さんは「人間の根本が同じ気がした」という理由で、オフィスのシェアを彼女に持ちかけた。

ちょうど、木ノ下さんも事務所を探していた時期だったので、2人はすぐに意気投合。1部屋を2人でシェアすることになった。

オフィスに必要な棚や照明などの備品は2人の感性で選び、費用も折半した。備品は必要最小限だが、コンクリートむき出しの質感と備品が気持ちのいいオフィスを生み出している。

オフィスをシェアすることのメリットとは

ビルの1室をシェアするメリットは、家賃や備品の費用が半分になるということがあるが、それだけではない。

まず、お互いの仕事を助け合うことができる。それにオフィスにやってくる、それぞれの来客を紹介しあうことで人脈が2倍になり、仕事にもプライベートにも広がりが生まれることになる。このあたりが1人で事務所を借りる場合と、シェアオフィスとの大きな違いだろう。

さらに、このビルの場合、建築家やプログラマーなど、クリエイティヴな職種の人々が入居しているので、情報交換などがスムーズになるというメリットもある。

現在はお互いに別々の仕事をしている2人だが、新たに共同の事業も近日スタートすることになっているという。これはクリエーター仲間に声をかけ、ホームページ上で「インターネットギャラリー＆ショップ」を開設しようというもの。この事業は、鑑賞するだけではない暮らしに身近なアート作品を制作販売するというもので、2人がシェアオフィスしたことで始まることになった新しい展開だ。

1を2で割ることは半分になることだけではない。学校では教えないが、そこからさまざまな新しい未来が生まれるきっかけなのだ。

広くはないが街の中心部にある事務所、住居を兼ねた仕事場、いわゆるSOHO（スモールオフィス・ホームオフィス）というスタイルが注目されている今、シェアオフィスは、もしかすると、次の時代の幕を開く新しい形態なのかもしれない。

KASUGA